

参加したきっかけは、知り合いの昆虫研究者から、君の住んでいる地域のデータがないから見かけたら報告してほしいという呼びかけでした。いざ参加してみるとはまってしまい、あちこのスーパーに寄って調べるようになりました。慣れない土地のスーパーでは、なかなか見る機会のない地物の海産物に出会うこともありました。長崎市内で色鮮やかなヒオウギ貝を見かけたときは感動しました。また、この調査で共に調べた同志の何名かとは、今もやりとりが続き、仲良くさせていただいています。カキ調査がなかったら、こうした出会いはなかったかもしれないと思っています。

以前、フィールドレポータースタッフの中野敬二さんから、飛び出し坊やの調査がまさに人生を豊かにするきっかけになったとお伺いしました。フィールドレポーターの調査に参加した人の中から、このようなかけがえのない経験をする人が増えたらいいなと願っています。もし昆虫をテーマにした調査で何か面白そうなものがあれば、是非ともご協力させていただきたいと思います。これからどうぞよろしくお願いいたします。

フィールドレポーター副担当学芸員 今田舜介

“びわ博フェス 2025”

11月15日（土）、16日（日）開催

フィールドレポーターも参加します

フィールドレポータースタッフ

フィールドレポーター担当のワークショップ会場は“おとなのディスカバリー”です。

☆ワークショップ

1、『紙テープを魚の形に編みくもう』です。

紙テープを準備します。ご参加の皆さんには、右の図を参考にして「紙うお」を作ってもらい、作品はお持ち帰りしていただきます。

2、『さんずい』を見つけよう』です。

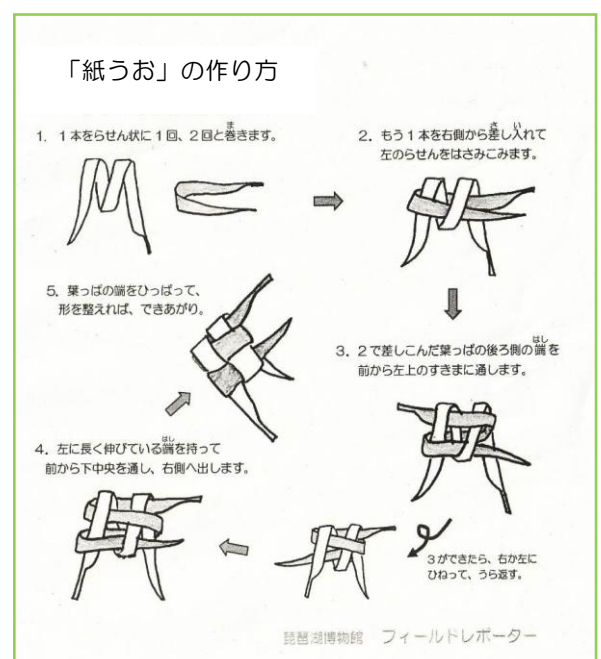
水辺の魅力調査に因み、展示室で「さんずい」の漢字を探してもらいます。

☆アトリウムのポスター展示

「生き物供養碑」調査結果です。

昨年度は、ワークショップが実習室会場で、「拓本を作ってみよう」。ポスター展示は「近江のナレズシ県民大集合」でした。

（イラストはFRスタッフ提供）



2025 年度第 1 回フィールドレポーター交流会実施報告

フィールドレポータースタッフ 大河原秀康

6月15日（日）、琵琶湖博物館セミナー室にて、恒例の「フィールドレポーター交流会」が開催されました。

今年度は、24名の参加者の下での交流会となりました。一般参加者に加えて、琵琶湖環境部環境政策課の辻課長や、新聞記者の方の参加もあり、内外から関心の高いものとなりました。

今回は2023年度に実施した「近江のナレズシ県民大調査」の滋賀県民以外からのデータに関する報告と、2024年度に実施した「生き物供養碑調査」から見てきた様々な石碑の設置理由の報告を行いました。

今回の報告では、例えば「近江のナレズシ県民大調査」では、質疑応答で、「回答者の構成に偏りがある（大学生が多い）のが難点」「他府県に住んでいても、その人が滋賀県とどのような関わりをもっているかで違うのでは？」など、鋭い意見も出ました。

コメンテーターとして、両調査の担当学芸員を務め、現京都華頂大学日本文化学部長の橋本道範教授にコメントをもらいました。その言に従いますと、近江人にとっては身近な話題であるフナズシに関わる「近江のナレズシ県民大調査―県外在住者の結果を中心に―」と、あまり日常的には意識することが無いような話題としての「生き物供養碑」と言う2件のテーマについて、非常に面白いデータが得られたということでした。

いずれの報告も、研究者と市民の皆様が「問い」「課題」を共有出来たことによって、科学研究としての評価の指標となるデータがきちんと収集され、かつ調査に参加した市民の皆様が Well Being の状態にあったと見受けられ、琵琶湖博物館の調査としては成功であったとのコメントを頂きました。

更に2025年度第1回調査のテーマとして準備を進めている「水辺遊び調査」についての概要報告もなされ、前2件の報告および新規テーマに対する質疑応答や、全体交流会を通じて、参加者間での活発な意見交換が行われました。

（写真は柁島提供）



交流会会場（セミナー室）



タンポポ調査結果 中間報告

レポータースタッフ 前田雅子

春のタンポポ調査では、29 名の方から 499 地点、タンポポ総数 641 件もの回答をいただきました。皆さん、大変ありがとうございました。

現在、集まった頭花サンプルの同定と整理そしてデータ入力を終え、結果のまとめにとりかかっているところです。これまでに集計できた事がらを簡略にお知らせします。

1. 外来と在来はほぼ同じ割合

滋賀県には在来の白花が 2 種、在来の黄花が 4 種、外来の黄花が 2 種分布していますが、外来種と在来種が交配してできた雑種が拡がって、ややこしい状態になっています。

「タンポポ調査西日本 2025」では白花種、黄花在来種、雑種を含む黄花外来種の 3 つに大別していますので、集まった標本をその区分に従って表 1 に示します。

白花種は 46 件、黄花在来種は 278 件で、この二つを合わせた在来種は 324 件（51%）でした。一方、雑種を含む黄花外来種（以下、黄花外来種と略す）では、タネの色から種（しゅ）を判別できたもの（セイヨウとアカミ）が 66 件、タネができていないために種を判別できないものが 50 件の他、花粉がなかったり、外苞が横向きだったり、角状突起があったりして雑種を疑うものが 201 件ありました。この黄花外来種は 317 件（49%）でした。在来種と外来種の割合はほぼ同じくらいということになります。

ただ、2020 年の調査で在来種が 56%だったのに比べると、2025 年の在来種の割合はやや低くなっています。また、黄花外来種の中では、セイヨウタンポポ、アカミタンポポ、種不明の外来種を合せた数よりも、雑種の方が断然多いことから、“外来種が多い”というより“雑種が多い”という方が正しいでしょう。

表 1 集まったタンポポ標本

区分および種名	件数と割合
白花種	小計 46 件（ 7%）
シロバナタンポポ	39 件（ 6%）
キビシロタンポポ	7 件（ 1%）
黄花在来種	小計 278 件（43%）
カンサイタンポポ	161 件（25%）
セイタカタンポポ	111 件（17%）
トウカイタンポポ	3 件（0.5%）
ケンサキタンポポ	2 件（0.3%）
種不明の二倍体種	1 件（0.2%）
雑種を含む黄花外来種	小計 317 件（49%）
セイヨウタンポポ	59 件（ 9%）
アカミタンポポ	7 件（ 1%）
種不明(タネなし)の外来種	50 件（ 8%）
外来種(雑種)	201 件（31%）
合計	641 件

2. 環境区分と分布種の関連は明瞭でない

人が定期的に手を入れる場所に在来タンポポ、人工的に攪乱された場所に外来種が生育するので、タンポポは環境指標生物とされています。

けれども今回の結果では、最も自然的環境の「林縁」で在来種が多いものの、外来種の割合は自然的な「農地」（54%）も、人工的な「都市的緑地」（53%）や「車道沿い」（47%）も、大差ありませんでした（図 1）。その中で、「河川」は「林縁」に次いで在

来種が多かったことが、注目されます。「農地」で在来種が予想よりも少ないことについて、地域によって違いがあるのか、あるいは畑では外来種が多いといった固有の事由があるのかなどを、これから検討する予定です。

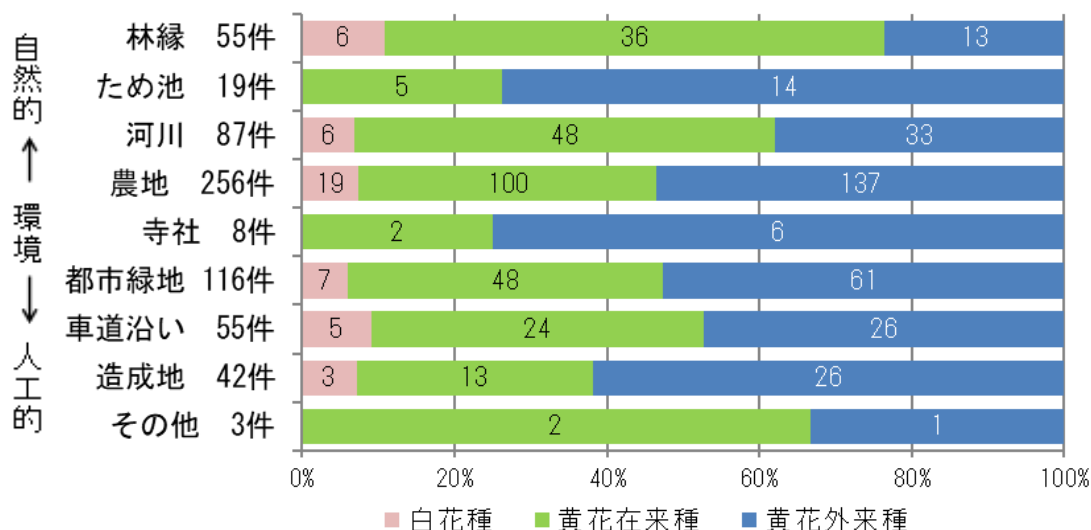


図1 環境ごとの生育種

3. 種や地域によって、花期に違いがありそう！？

今年は春先の気温が低く、例年よりもタンポポの開花時期が遅かったように思います。調査日を5日ごとに区切ってみると、3月25日まではほとんどが外来種の報告でした（図2）。多くの場所では、在来種の咲き始めは3月25日以降だったようです。それから5月5日までは在来・外来の両方が見られた時期ですが、5月5日以降は外来種が少なくなりました。そして、在来種も5月20日以降の報告は少なくなりました。この調査では、綿毛ばかりになって開花の花茎がない場合は報告できないことが関係すると思われる。

高島市のHさんは、「調査で連日各地域を回っていて、セイヨウタンポポが、湖岸地域では4月25日～26日ごろにほぼ全て綿帽子（タネ）になり、中山間地では4月30日頃にほぼ全て綿帽子（タネ）になった。中山間では湖岸より明らかに4～5日程度遅いように思われる。」と、調査票に記しておられます。琵琶湖に近い暖かな地域では開花が早いのか、また、種による違いがあるのかについて、花茎の成長段階の記録データから検討したいと思っています。

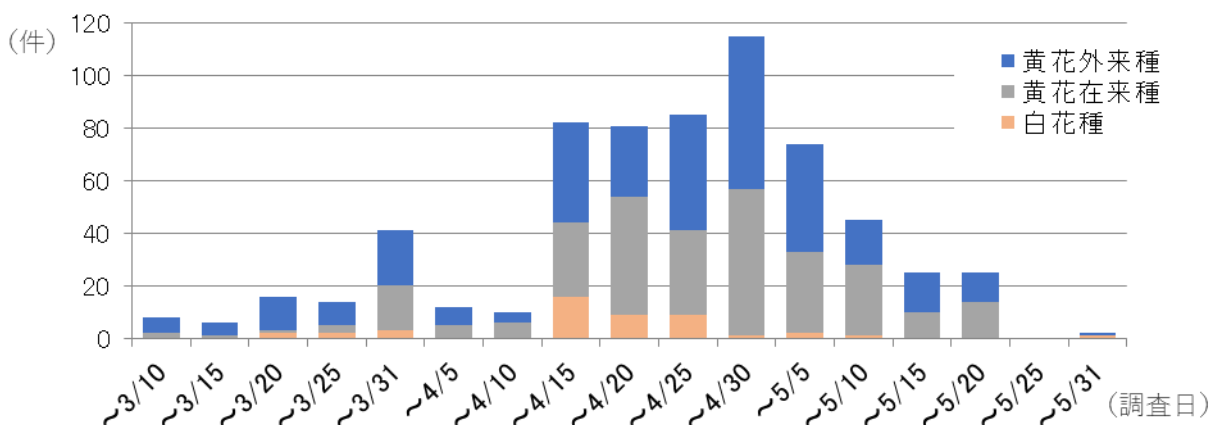


図2 調査日と観察された生育種の件数

「飛び出し坊や」を育むエネルギー

フィールドレポーター 中野敬二

2016 年度、「飛び出し坊やを調べよう」のテーマを掲げ、県内一斉でのフィールドレポーター調査を行いました。

その数や種類、設置場所がどうなのかを見極めることを主題としたうえで、何故滋賀県にだけ突出して多く存在するのか、解明できればそれも成果と考え取り組みました。結果は、フィールドレポーターだより！！（巻 47 号）として報告しましたので、琵琶湖博物館 HP のフィールドレポーター活動報告の検索により、何時でも閲覧できます。

調査では、飛び出し坊や本体や支柱に表示設置されていた設置者名を調べました。その結果、坊やの設置、維持管理には、想定を遙かに超える多種多様な組織、団体の、支持、支援、日常活動が存在していることが明確になり、長年にわたる積み重ねの成果とうかがい知ることが出来ました。飛び出し坊や調査の結果を報告したところ、各方面から少なからず関心のコメントがあり調査の成果があったと認識しました。ただ、そんな良い活動なら全国的にもっと広がりがあるべきで、滋賀県にだけ“なぜ”多いのかの明確な答えが出てきませんでした。

この点が担当者として何故なのか見極めたいところとなりました。

この疑問解明のため、本調査後も、いろいろな、組織、管理者のお話を伺う活動は継続しています。ただ、納得いく結論にはどうしても到達できません。

個人的な活動の限界を意識しましたが、最近、飛び出し坊やに関する情報が各方面に散見できるようになり、やはり、やるべきだと、調査継続の必要性を再認識するに至りました。

飛び出し坊やの支持母体、運営組織の多さと実践活動の多様性は、調査を通じ十分認識できました。この点をさらに深掘りするのが次なる課題と考えました。

調査目的は、実践活動の実態を具体的に見て回ること、必要であれば過去実行して成果を上げられた活動内容や経験談の聴取などを当面の目標にしました。

第一回報告です。

当報告はオムロン労働組合草津支部の訪問記録です。

片手をあげた、表裏同じの男の子の、このタイプが市中に立って活躍しています。草津周辺地区では「ああ、見たことがある」と思われ方が多いでしょう。



2016 年度のフィールドレポーターだより便り！にまとめた、琵琶湖博物館分類方式ポーズ（A,B,C,D,E）に従うと、B 型（渡ろうとしています）に属する坊やです（写真右）。

県内で多く見られる赤シャツ、黄ズボンの（C 型＊いわゆる O 系）が数的に多いなか、青シャツ、黄色ズボンも比較的多く見られます。



A



B



C



D



E



2016 年調査時は草津市だけに観察出来ました。坊やのボールにオムロン労働組合、通し番号、制作者イニシャルの書かれた銘版が坊やの支持ボールに貼り付けられたものです。オムロン労働組合が設計製作し組合活動の一環として責任を持って普及活動に当たっている実態がよく分かります。



本調査以降、草津市周辺、栗東市、野洲市、守山市の周辺各所に見られるようになり活動が活発に進んで居るよう見えたので、是非組合を訪問し、現場担当者の声を聞きたいと考え、琵琶湖博物館 大久保学芸員を通じてご相談させていただいたところ、2025 年 3 月 22 日（土曜日）、組合員有志で、坊や制作を行うので見に来ていただいて結構ですとの連絡をもらいました。

制作現場の観察も OK、インタビューにも答えていただくとの了解、承諾もあり、喜んで訪問させていただく運びになりました。

オムロン草津事務所は JR 草津駅の南（西草津 2 丁目）にあります。広大な敷地の一角に労働組合事務所がありました。9 時 15 分の訪問約束時間には事務所横のテニスコートが十分に入るスペースにブルーシートが敷詰められ、組合員のご家族と制作世話役の役員さん約 30 人がすでに活動されておりました。



以下、訪問体験記を時間を追って記述します。

オムロン労働組合草津支部執行委員長、丸野良太さんが先ず組合事務所に案内して下さり双方の挨拶の後、飛び出し坊やを組合活動の一環として取り上げた経緯と、現状、今後の活動方針を語って下さいました。丸野さんには、事前にこちらが挙げた質問にも丁寧な回答を頂きました。

活動の始まりは平成 20 年（2008 年）で、組合選出で草津市議の山本正行氏を中心として 16 年間で実行推進されていた、「地域社会貢献活動の理念・精神を継承するため」との説明でした。それ以降、「オムロン労組としても組合員が地域社会に主体的に参画し、貢献する機会を作り、意識醸成を大事にしている」と伺い、並々ならぬ決意を感じました。

活動開始にあたり、明確な目標が定められました。冒頭の述べられた“社会貢献”が、その一つですが、それに加え“継続性”が大きな要因と位置付けられたようです。それを今日まで見事に実践されていることに心から賞賛したいと感じる説明内容でした。

説明を受けているうちに外がにぎやかになってきたようです。順調に仕上げが進むよう制作方法のパネルが準備されています。それに従い作業がドンドン進んでいるようです。

一見難しそうですが、「2 時間あれば大体できます」というスタッフの方のコメントでした。



(生地) 塗り作業や目鼻の位置をセッティングする作業は終わっており、ズボン(黄色)、シャツ(青色)の塗作業に皆が取り組んでいました。

親子のペアが各自のテーブルで精力的に色塗りを進めて大変にぎやかです。

中には大人の方が熱心なテーブルもありました。



興味深いのは、顔の表情にはいつてからです。目鼻の位置が少々違っているというレベルではありません。

笑い顔、澄まし顔、怒り顔、テレビキャラばりの創作モデルが飛び出してきました。皆さんここが勝負どころと、マジ取り組みです。

見ていて思わず応援をしてしまいます。



手前は、比較的標準タイプ

奥は、へのへのもへじ

初参加の方も、どのように個性をだそうかと、スタッフの方と相談したりして大変です。

ベテラン参加の親子は、十分に構想を練ってこられたと見え「そうそう」「そこそこ」「ちがう」などの声掛けチェックをしながら仕上げていました。



標準タイプ制作テーブル

顔が制作のポイントなのか、どのテーブルでも最後の仕上げ時間が長かったようです。

どこまで個性的に仕上げるかがポイント。

構想通りの仕上がりで、満足なところ、今イチかなー、といった風情のところ、いろいろありましたが、みんな仕事した感、充分にみえました。

町でみかける坊やに、同じものがないのは当然と考える制作現場です。



「間もなく出陣・ご期待ください」テーブル

いよいよ仕上げです。11 時を回りました。

スタッフの方が「そろそろ終了に入ります。制作カードに名前を忘れないように」と参加者メンバーに告げて回られました。

坊や乾燥のコーナーには、ポールに制作者の証明札のついた完成坊やが倒立して並びました。



本日の完成数 21 体（オムロンでは台）と発表されていました。

この後はスタッフの方の仕事で、この場で一日乾燥させ、ペンキの垂れの無くなるのを確認後、専用倉庫に移動し製作者イニシャルの入った専用パネルが取り付けられます。この時、通算の坊や番号が設定されるということでした。



制作の一部始終を見せていただき、参加の組合員の皆さん、スタッフの皆さん、とても楽しく活動されているのがとても印象に残りました。「継続すること」の成果の大きさを改めて認識させて頂いたオムロン労働組合草津支部の皆さん、本当に良い経験をさせて頂きました。今後の更なる活躍を期待いたします。ありがとうございました。

訪問に先立ち何点かの質問に文書で答えて頂きましたので紹介します。

Q. 設置範囲や設置場所はどのように決めていらっしゃいますか？

A. 活動開始時は草津市のみでした。草津市 PTA 協議会の取りまとめにより各学区への寄贈を決めておりました。2012 年に寄贈範囲を野洲市にも拡大しています。これは弊労組が野洲の分会を設置したことが背景にあります。

Q. 現在の坊やの件数、これまでに設置してきた坊やの延べ件数がわかれば、教えてください。

A. 昨年度時点で延べ 1572 台を作成しました。寄贈は 1495 台です。今年度も 40 台ほど作成しております。

「2025 年 5 月に頂いた回答を、文面どおりに表記しました。」



オムロン労働組合では、写真のような坊やのステッカーを制作し、色々なところに配られています

レポートまとめに当たって

オムロン型坊やが守山市内で見られるようになり、設置者を尋ねますと別の労働組合の活動と分かりました。

労働組合の社会福祉活動がとても幅広く深いと想像されます。引き続き守山方面の調査を続け、関係者の方々のお話を聴きたいと思います。結果がまとまれば、報告します。

（＊ 文中の写真、イラストは筆者）

摘み取った後に開いたタンポポ

ファールおばさん

春のタンポポ調査で、カンサイタンポポかな？セイタカタンポポかな？と思う花を見かけました。時間が早かったためか花はまだ閉じた状態で、おまけに夜露に濡れていたの、花だけ採って車のダッシュボードに置いておきました。

それから 30 分ほどして車に戻ってみると、なんと、びっくり。花が開いていました。摘み取るとしおれるのが普通で、いくら陽の光にあたっていたとはいえ、閉じていた花が開花するとは思っていませんでした。

9 時半ごろに花が閉じていた時の写真はありますが、家に帰って、開いた花を写真に撮り観察しました。



4 月 10 日 10 時 34 分撮影
外側の 2、3 周の小花は開き、内側の
小花は開花していない（白矢印）。



4 月 10 日 12 時 47 分撮影
両サイドの個体は、10 時の段階で丸まって
いた内側の小花が、全部開花した（赤矢印）。

13 時を過ぎた頃から花がだんだん閉じてきて（自然界でも夕方には閉じる）、翌日は花が閉じたまま萎びていました（花茎を水に浸けていたら、翌日も開花したと思います）。

タンポポは陽をあびて開花しますが、この一連の現象から、葉っぱや根がない状態でも、陽を感知して開く機構が頭花の中にあるのかなと思いました。それとも、弱ってきて、花びらを落とすような感じで花が開いたのでしょうか。

日頃散歩する場所は柳が崎湖畔公園です。琵琶湖からの四季折々の風を感じながら、北方には比良山系の山並み、冬は雪をいただいて聳えています。東方には三上山（近江富士）が見えます。

晩秋から春にかけては、水鳥でにぎわいます。ホシハジロ、キンクロハジロ、オオバン、ヒドリガモ、カンムリカイツブリなどが見られます。そして、たまには珍しいものが見つかります。

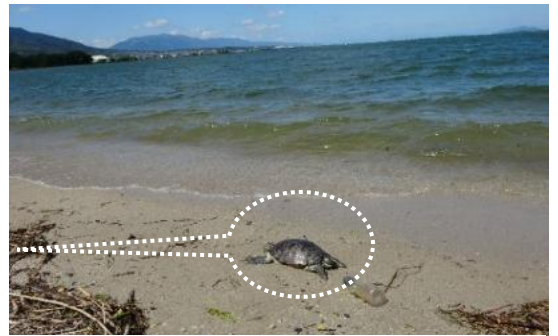
ここ2年間で見つけた、私にとっては珍しいと思われる写真を紹介します。

1. アカミミガメを見つけました（写真①、②）。

2025年5月7日、大きさは40cm位が1匹だけです。この場所では初めての観察です。放置されたのかもしれませんが。



写真② アカミミガメ



写真① 柳が崎湖畔公園とアカミミガメ

2. スクミリンゴガイの貝殻を見つ

けました（写真③）。2023年5月31日です、その後2025年夏までは観察していません。スクミリンゴガイはこの近くには分布していないと思うので、堅田や野洲方面から殻だけが流れ着いたと考えます。

3. アゲハチョウが釣り人の放置した魚の屍骸に止まって、体液を吸っていました（写真④）。2024年6月20日。近寄っても、払ってもすぐには飛び立ちません。チョウの観察されている方にお聞きすると、珍しいことではないようです。



写真③ スクミリンゴガイ

4. 白いカラスを時々浜や柳の木に止まっているのを見かけます（写真⑤）。2024年2月22日の写真。

5. 白いハトをこの場所では初めてみました（写真⑥）。2025年8月21日に1羽だけです。



写真④ アゲハチョウとフナ



写真⑤ 白いカラス



写真⑥ 白いハト

散歩しながら、少し注意して観察していると、いろいろと見つかって楽しいです。

（写真は6枚とも筆者提供）

2025 年度第 1 回調査「水辺の魅力調査」の案内です。

フィールドレポータースタッフ

今年度の第 1 回調査です、8月に調査案内と調査票を送りました。すでに多くの方から返信を頂いています。まだの方はご確認ください、返信をお願いします。調査票は琵琶湖博物館のホームページのフィールドレポーターの欄から入手できます。多くの皆さんのご参加をお願いします。

琵琶湖博物館 2025 年度フィールドレポーター調査
Social well-being につながる環境へ

第 1 回 水辺の魅力調査

「楽しめる・つながる・活かせる」水辺へ

近年、地域づくりの一環として、水辺の存在があらためて注目されています。
「かつて川や内湖、湖辺はみんなの遊び場だった」というような…水辺は、かつては身近な存在でしたが、みなさんは、今でも川など身近な水辺を訪れているでしょうか？
水辺の活動を通じて水環境を保全・活用するためのヒントを得るとともに、人と地域のつながりを深め、身近な水環境を活かした地域の魅力再発見につなげるため、本調査を実施します。
ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

調査期間 2025 年 8 月 8 日(金)～11 月 20 日(木)

回答方法

- 1 郵送で回答
【送付先】〒525-0001 滋賀県草津市下物町 1091
滋賀県立琵琶湖博物館フィールドレポーター係
- 2 メールで回答
琵琶湖博物館のウェブサイトからダウンロード ▶
いただけます。
【送付先】freporter@biwahaku.jp
- 3 スマホで回答 (Google フォーム)

◀こちらからご回答下さい。▶

【お問い合わせ先】
滋賀県立琵琶湖博物館
フィールドレポーター 2025 年度「第 1 回 水辺の魅力調査」
担 当：杉田 薫 (フィールドレポーター・スタッフ)
担当学芸員：鈴木 隆仁、楊 平 (環境学習・交流係)
メール：you-hei@biwahaku.jp TEL：077-568-4811 (代表)



活動報告・活動予定

2025 年度（4 月～9 月）の活動報告

月	日（曜日）	場所	参加	内容
4 月	5 日（土）	交流室	6 名	定例会；交流会開催の検討
	19 日（土）	交流室	6 名	定例会；交流会の詳細決定
5 月	3 日（土）	会議室	9 名	定例会；第 1 回調査テーマ検討
	17 日（土）	交流室	9 名	定例会；FR だより「近江のナレズシ調査」と交流会案内状の送付
6 月	15 日（日）	セミナー室	24 名	2025 年度第 1 回 FR 交流会
	28 日（土）	交流室	8 名	定例会；第 1 回調査「水辺遊び」検討
7 月	5 日（土）	交流室	8 名	定例会；第 1 回調査「水辺遊び」検討
	19 日（日）	交流室	8 名	定例会；第 1 回調査「水辺遊び」検討
8 月	2 日（土）	交流室	6 名	定例会；「水辺遊び」調査票の発送
	24 日（日）	交流室	4 名	定例会；FR だより「生き物供養碑調査」検討 次の調査テーマの検討
9 月	6 日（土）	交流室	7 名	定例会；「タンポポ調査中間報告」、11 月開催 びわ博フェスの検討
	27 日（土）	交流室	8 名	定例会；びわ博フェス、掲示板 106 号、FR だより「生き物供養碑調査」の検討

2025 年度 10 月～3 月の活動予定

月	日（曜日）	時	内 容	場 所
10 月	4 日（土）	13：30～16：30	定例会	交流室
	18 日（土）	13：30～16：30	定例会	交流室
11 月	1 日（土）	13：30～16：30	定例会	交流室
	15 日（土）	10：00～16：30	びわ博フェス	交流室
	16 日（日）	10：00～16：30	びわ博フェス	おとなのディスカバリー
12 月	6 日（土）	13：30～16：30	定例会	交流室
	20 日（土）	13：30～16：30	定例会	交流室

1 月	10 日（土）	13：30～16：30	定例会	交流室
	24 日（土）	13：30～16：30	定例会	交流室
2 月	7 日（土）	13：30～16：30	定例会	交流室
	21 日（土）	13：30～16：30	定例会	交流室
3 月	7 日（土）	13：30～16：30	定例会	交流室
	21 日（土）	13：30～16：30	定例会	交流室

定例会は原則として、毎月第1、第3土曜日の13：30～16：30に琵琶湖博物館の交流室で行なっています。どなたでも参加できますので、お気軽にお越しください。なお、予定が変更になる場合があります。琵琶湖博物館フィールドレポーターまでお問い合わせください（Email：freporter@biwahaku.jp）。

編集後記

今回の掲示板は中野敬二さんから「飛び出し坊や」を継続して調査されている報告を提出していただいたことで、充実した内容になりました。ありがとうございました。

第1回調査は水辺の魅力調査「楽しめる・つながる・活かせる」水環境です。水辺とは、川、水路、池、湧き水、田んぼ周辺、内湖、琵琶湖といった淡水の水ある所です。

身近にみられる水の水環境の調査ですので気軽に参加していただいて、多くの調査結果をお待ちしております。

掲示板は今年度第1号です。発行回数が増えるように皆さんの投稿を期待しています。投稿は調査票の送付封筒に入れていただいても良いですし、メールでも良いです。

（Email：freporter@biwahaku.jp）。たくさんの投稿お待ちしております。

（担当 梶島昭紘）



滋賀県立
琵琶湖博物館

〒525-0001 滋賀県草津市下物町 1091
TEL: 077-568-4811 FAX: 077-568-4850
E-mail: reporter@biwahaku.jp